

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
10月2日（水）	益田地区振興センター	19:00～20:32	20	3	23

○市側出席者

市長、副市長、経営企画部長、秘書広報室長

2 会の概要

○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

(1) 行財政改革

- ・ 益田市の市政運営の基本指針である人口拡大と行財政改革は表裏一体の関係にあるが、財政の規律を守り、財政改革をしなければ人口拡大のための事業に取組めないこと。
- ・ 益田市は平成17年に財政非常事態宣言をし、行財政改革大綱(平成21年度が最終年度)を策定したが、その後止まったままであること。
- ・ 現在平成25年度から平成32年度までの8年間の新しい「行財政改革計画」の策定作業に取り組んでいること。
- ・ 地方交付税について、現在市町村合併の特例措置で年12億円加算されているが、今後は段階的に減額されていくこと。

(2) 人口拡大計画

- ・ 財政状況は厳しいが、課題を整理し、平成26年3月に「人口拡大計画」を示すこと。
- ・ 人口拡大については、3つの要素(社会増、自然増、交流人口拡大)と5つの視点(転入増、転出減、出生増、健康長寿、交流)で捉え、取り組んでいくこと。
- ・ 出生数を増やすための最大の障害となっているのは、育児にお金がかかることであることであり、そのための対策の一つとして、乳幼児医療の助成対象を拡大したいと考えていること。

(3) その他の重点事項

- ・ 企業の活動活性化、企業誘致促進のためには交通網の整備は不可欠であること。

① 萩・石見空港

ア 東京便

- ・ 利用者数は、平成23年度61,000人、平成24年度66,000人、平成25年度目標70,000人であり、今年度の目標は達成される見込みであること。
- ・ 現在、羽田発→石見着は利用者が多いが、石見発→羽田着は少ないこと。
- ・ 東京便が伸びている理由は、羽田発→石見着→岩国錦帯橋発→羽田着の利用が増えていることが主な要因であること。
- ・ 東京便は2便化に重点を置いており、夕方便が出来れば、羽田発→岩国錦帯橋着→石見発→羽田着の利用の可能性が高くなること。

イ 大阪便

- ・ 利用者数は、平成23年度4,500人、平成24年度4,500人、平成25年度目標5,200人に対して実績は5,000人以上であったこと。

② 山陰自動車道

ア 浜田・三隅間

- ・ 平成16年度に事業化され、平成20年度に着工されたこと。
- ・ 浜田・西村間は平成26年度末に開通見込みで、西村・三隅間は平成28年度開通見込みであること。これにより、益田・浜田間が13分短縮されること。

イ 三隅・益田間

- ・ 平成23年度末に事業化が決定されたこと。
- ・ 通常事業化が決定されてから開通までに10年は要するが、この期間が短縮されるように努めること。
- ・ 安来・益田間の開通の目途をを2020年としていること。

ウ 萩・益田間

- ・ 萩・益田間の60kmについて、これまでは予定路線であったが、このたび優先区間絞り込み調査区間になり、60kmの中のどこを優先するかという調査が始まることになったこと。
- ・ 今年夏の豪雨では、国道9号、191号共に不通になり、山陰自動車道が開通すれば、こうした場合のバイパス機能も発揮出来ること。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 交通網の整備について
- ② 交流人口の拡大について
- ③ 三宅御土居の活用について
- ④ 観光立市について
- ⑤ 歴史文化情報発信施設の設置について
- ⑥ 市庁舎の耐震化について
- ⑦ 明治、大正時代の建築物の保存について
- ⑧ 歴史文化基本構想について
- ⑨ 益田市への訪問者が市内の留まる対策について
- ⑩ 人口拡大計画について

○ 閉 会 （秘書広報室長）



平成25年度「市長と語りあう会」

〔会場 益田地区振興センター〕 開催日時：平成25年10月2日(水)19:00～20:

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 交通網の整備について 今の益田は陸の孤島状態にある。夏の豪雨でJRが被害を受け復旧に1年以上要すると思うが、これが首都圏だったら数日後には復旧しているのではないか。</p>	<p>① この夏の豪雨については、津和野の名賀から南が被害が大きく、須佐においても鉄橋が被災した。 JRは、早期に代替バスを走らせて頂いて助かっている。 先般、県知事、津和野町長と一緒に、JR本社、広島支社に早期復旧の要望に行ったが、同程度の被害を受けた平成22年度的美祢線が復旧に1年以上要しているとのことであった。 また、被害が少なかった益田・津和野間だけでも先に復旧出来ないかということをも求めたが、列車集中制御装置が新山口にあり、そのケーブルが断線し難しいとの回答であった。JRも、う回路を設けてでも復旧したいと努められている。</p>
<p>② 交流人口の拡大について 陸の孤島への企業誘致は難しいと思うことから、企業の誘致にあたっては、県、国に働きかけて頂きたい。人の嫌がる施設の誘致も検討して欲しい。 企業誘致より、交流人口の拡大の方が効果的ではないか。 例えば、鎌手の水仙公園についてもそこに辿りつけるような標識がない。</p>	<p>② 観光振興により交流人口を拡大してはどうかという提案についてはその通りと思う。 観光案内の標識については、設置していきたい。 企業の誘致は、新たな工場建設の場所の候補地として、国外もある。最近では東南アジアに目が向いている。しかし、国内での工場が集中すると大災害の際にいっぺんに大きな被害を受ける危険性がある。 市(産業支援センター)と県(企業立地課)が共に情報網を張り巡らし、企業誘致に取り組んでいる。みなさんに朗報が伝えられるように努める。</p>
<p>③ 三宅御土居の活用について 三宅御土居の整備は手つかずである。こちらを優先すべき。 また、かつて益田地区には益田館という芝居小屋があった。この復活を希望する。</p>	<p>③ 三宅御土居については、これまで土地の買取りを進めており。それが出来てから活用方法を検討する。 中須東原遺跡は専門家から歴史的価値が高いと判断され私自身もそのように判断した。地権者の同意も得られたことから史跡指定の可能性が高いと見ている。平成28年度の公有地化を目指している。 三宅御土居から中須東原遺跡まで一体的な観光資源としていきたい。 益田館については今後研究していきたい。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>④ 観光立市について 益田市は観光立市を目指して欲しい。20年前「益田市は生きた中世博物館」と言われた学者がいる。町割りや地名が中世のまま残っている所もある。 益田市には「歴史を活かしたまちづくり構想」があるはずだが、それをどうやって進めるかが見えない。母体になる部署が不明確。中須東原遺跡も市役所内部が一体的になった取組みではない。美都、匹見、益田の文化財も一体的に活かして欲しい。</p> <p>⑤ 歴史文化情報発信施設(機関)の設置について 例えば博物館のような益田の歴史や文化の情報発信施設(機関)が必要と思い、県へも数回要望したが結果的には美術館(グラントワ)として実現した。 本来、観光協会が情報発信をすべきであると思うが出来ていない。 また、赤瓦屋根には補助金があった黒瓦はその対象になっていない。古くから赤瓦と黒瓦があり、黒瓦は武家屋敷に多かったというようにそれぞれの色の違いがあるが、それをきちんと指摘する人がいない。</p> <p>⑥ 市庁舎の耐震化について 耐震化の費用が当初見込みでは8億円であったのが、増大しそうであるとの情報を聞いている。さらに増えるのではないかと懸念している。県合同庁舎の活用は出来ないか。</p> <p>⑦ 明治、大正時代の建築物の保存について 明治や大正時代の建築物の保存を検討して欲しい。市として支援して頂き、観光資源として活用して欲しい。</p>	<p>④ 「歴史を活かしたまちづくり構想」があるが何をするのか明らかになっていなかった。 第5次益田市総合振興計画において「歴史文化基本構想」を作ると謳っている。この構想を作るには文化財だけでなく、景観、建築物等様々な視点が必要であるが、未着手である 益田市に歴史を活かしたまちづくりへのビジョンがないのはそのとおりであるが、「歴史文化基本構想」を作るためには、中須東原遺跡や中世の益田氏、匹見の縄文遺跡、幕末の歴史をどう評価するかというところから始めなければならないが、大きな計画を作るためには行財政改革に取り組み財源が明らかにならないと着手出来ない。</p> <p>⑤ 博物館の設置は費用がかかる。中須東原遺跡や益田氏城館跡地の活用についても県の支援を期待している。 瓦の助成については、当初赤瓦だけだったが、今は景観に合ったものに支援しようということで検討している。</p> <p>⑥ 市庁舎については、新築か耐震化工事の選択に迫られている。 県合同庁舎へ仮に移るとしても市役所の全部署は収まらない。 新築すると、50億円が必要だが耐用年数は50年ある。 耐震化工事の場合には20年しか耐用年数がないが、新築ほどの費用はかからない。当初8億円を見込んでいたが、耐震化工事にあたっては、高齢者の方のエレベーター設置や1階のトイレの改善等も行なった方がよいなどと考えるとそれ以上にかかりそうである。</p> <p>⑦ 古い建築物は大切だと思うが、益田地区の建物だけを保存することはできない。広い視野での検討が必要と思う。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑧ 歴史文化基本構想について 歴史まちづくり法の支援を受けるためには、「歴史文化基本構想」の策定が必須条件である。（〔注〕正しくは「歴史文化基本構想」ではなく「歴史的風致維持向上計画」。）津和野町や萩市は既に策定している。益田市もどんなまちづくりをしたいのかというビジョンを策定して欲しい。 また、県や国の研究センター誘致も働き掛けて欲しい。例えば、古代は出雲、中世は益田というように考えられないか。</p> <p>⑨ 益田市への訪問者が市内の留まる対策について 市外からの来客者から、益田市には泊る所や見るところがないという声を聞く。また、益田市の歴史がわかるものが欲しいと言われる方もいる。 益田市への訪問者が市内に留まる手法を考えて欲しい。</p> <p>⑩ 人口拡大計画について お金をかけずに定住を促すにはどうしたらよいかと考えているか。</p>	<p>⑧ まちづくりのビジョンについては今後の検討課題としたい。 中世は石見となると世界遺産の石見銀山もあり、簡単に中世は益田とはならない。益田に目を向けさせるために文化財課を中心に県教委、文化庁、東大と共同研究をしており、研究発表を益田でも実施するよう計画している。島根県内で益田に注目してもらえよう更に努力していきたい。</p> <p>⑨ 市内にある遺跡や文化財は自分たちにとっては身近なもので思い入れがあっても、他の人たちにとっても同様かどうかはわからない。津和野町においても観光客が減少していると聞く。益田市の観光資源を活かすのは建物を残すだけではだめ。夕張市が破たんした引き金は「リゾート計画」であったと聞いている。そうした事例をきちんと学ばなければならない。確実に利益があると見極めた上でないと投資はできない。</p> <p>⑩ 即答は出来ない。様々な取組みには、金をかけてやることと、金をかけなくてもやれることがあるが、金をかけてやるためにも行財政改革に取組まなければならない。 仮に人口が増えなかったとしても、何もしなければ益々人口は減っていく。 益田市がひとつになって人口拡大に取り組んでいきたい</p>